

一人一人の状況に合わせた防災情報を提供し、
県民の「自助」を促進したい！

実証実験報告書

実証事業者：株式会社パブリックテクノロジーズ（旧株式会社EXx）
×
防災安全局 防災危機管理課

目次

● 1. 実証実験の概要

- 背景・目的
- 対象となる業務の全体像
- 目標・KPI

● 2. 実証実験の結果

- KPIに関連する結果
- 工夫したポイント
- 実証実験で得られた発見

● 3. 課題と今後の展開

- サービス/システムにおける課題
- 導入に向けての課題と解決策

● 4. 参考資料

- 成果物（制作物）紹介
- サービス/システムの紹介
- メディア掲載事例紹介

1. 実証実験の概要

背景・目的

一人一人の状況に合わせた防災情報を提供し、
県民の「自助」を促進したい！

- 県では「自助」を促す防災啓発パンフレット等を作成しているが、**全県民が対象であるため網羅的な内容**にせざるを得ない
- 一人一人の状況に応じて必要な防災対策は異なるため、**総花的なパンフレットから「自分に必要な対策」を選び出す手間**が生じており、啓発の効果が高まっていない



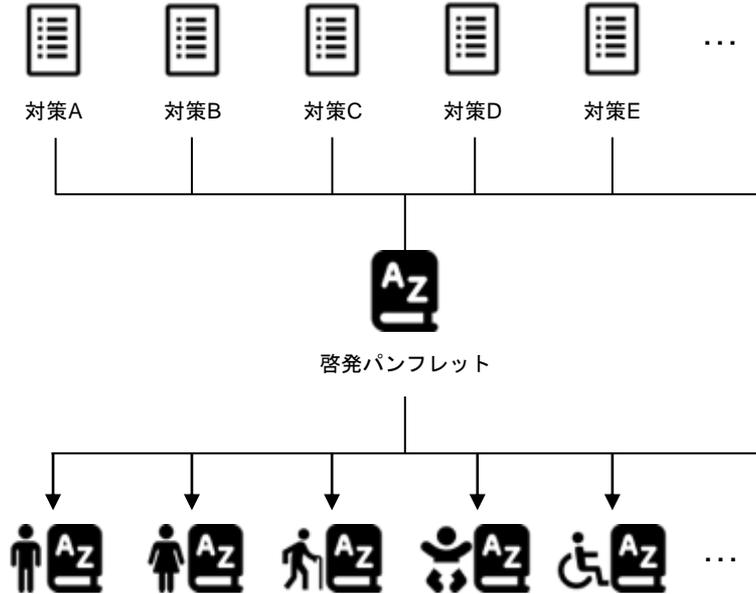
「オーダーメイド」の防災対策を知ることができるWebツールの開発

- ツールの中で家族、住居、居住地域等に関する情報を入力
- 入力した情報をもとに、必要な防災対策・備蓄品を表示

実証実験の全体像①

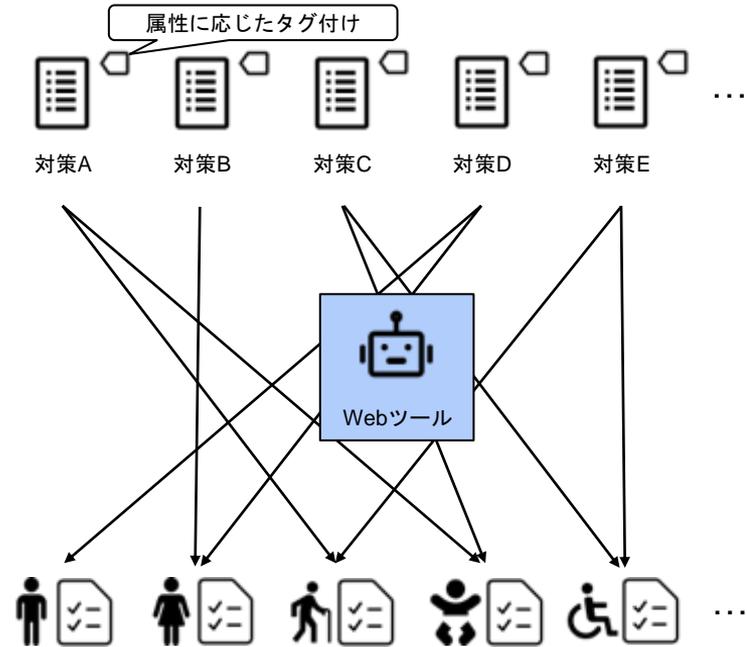
『県民一人一人の状況に合わせた防災診断ができるアプリを製作し、その使用により防災意識の向上が可能かアンケートにより検証』

現状



- ・住民は画一的な大量の情報を受け取る
- ・各住民が大量の情報から必要なものを選び出す必要がある

目標

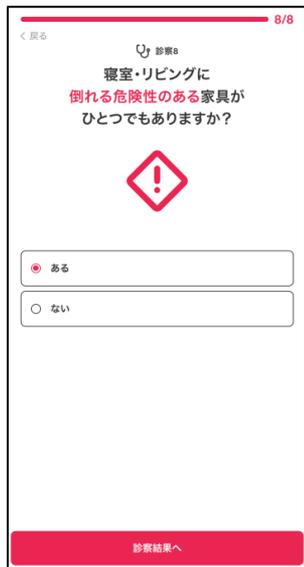


- ・住民はカスタマイズされた個別の情報を受け取る
- ・各住民が情報を探索・抽出する必要はない

実証実験の全体像②

『県民一人一人の状況に合わせた防災診断ができるアプリ』を製作し、その使用により防災意識の向上が可能かアンケートにより検証』

- みんなの防災クリニック（防災診断ができるアプリ）
 - ウェブアプリ形式で防災診断が行えるツール
 - 質問に回答することで、対策・備蓄品等から必要なものが抽出される
 - 備蓄品等については、家族の人数などに応じ、持出品・備蓄品それぞれに必要な数量が自動計算で表示される



目標・KPI

- 「オーダーメイド」の防災対策を伝えてどうしたいのか？
 - ① 自分自身に必要な**防災対策を明確に理解**できること。
 - ② 実際に**防災対策の実践**につながること。
- 目標に沿って以下のKPIを設定し、アンケート等で把握する。
 - **アクセス数：50**
 - 実証期間中で最大規模のイベントにおける県ブースへの来場者数を約100名と見込み、来場者の半数を目標とする
 - **結果表示ページへの到達率：50%**
 - ツールの使いやすさに関する指標とする
 - **ツールの使いやすさに関する満足度：80%（アンケート）**
 - 5段階評価のうち上位2段階（非常に使いやすい、使いやすい）を回答した割合
 - **防災意識の高まりに関する満足度：80%（アンケート）**
 - 5段階評価のうち上位3段階（非常に高くなった、高くなった、少し高くなった）を回答した割合

2. 実証実験の結果

KPIに関連する結果

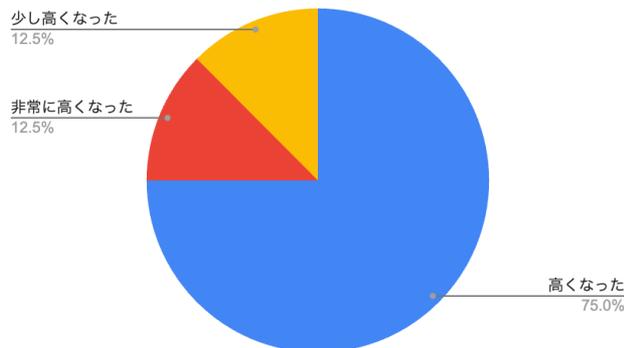
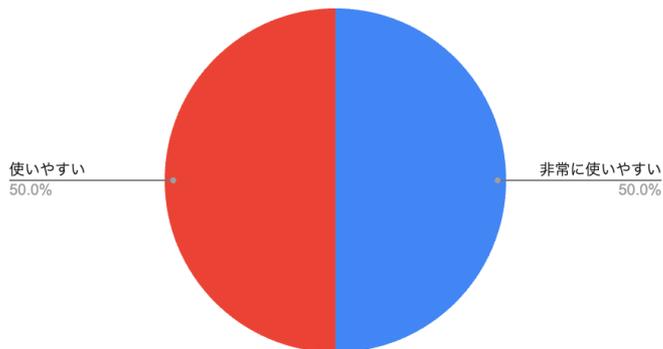
- 以下の4つのイベントに出展

- 10月28日（土） イオンいいともあいちフェア@イオンモール熱田店
- 11月11日（日） あいち防災フェスタ@名古屋港ガーデンふ頭
- 12月6日（土）・7日（日） 第11回中部ライフガード TEC2023@ポートメッセなごや
- 12月9日（土） 防災人材交流シンポジウム（つなぎ舎）@中区役所ホール

- KPIについては以下のとおり

- アクセス数：71（目標値：50）
- 結果表示ページへの到達率：77.5%（目標値：70%）
- ツールの使いやすさに関する満足度：100%（目標値：80%）

- 防災意識の高まりに関する満足度：100%（目標値：80%）



工夫したポイント

● UIの工夫

- ウェブブラウザ上で提供
(アプリインストールへの抵抗感に配慮)
- 表示に従いボタンをタップするだけの設計
- 1画面1質問に絞ってスクロールを不要に

1/8

< 戻る

診察1

いま一緒に住んでいるご家族の
人数を教えてください



男性

女性

次の質問へ

8/8

< 戻る

診察8

寝室・リビングに
倒れる危険性のある家具が
ひとつでもありますか？



ある

ない

診察結果へ

● 結果表示の工夫

- 対策と備蓄品等の表示を分割
- 優先順位の高い対策から上位に表示
(命に直結する対策を優先)
- 県ウェブサイトのリンクを貼付して誘導



あなたの診察結果

これは絶対必要
まずは必須の準備から

地域の災害の確認
市町村からハザードマップを手に入れて、災害が起こった
らどこに避難するかを知りましょう。
[詳細はこちら](#)

家具等転倒防止(寝室)
寝室の家具の配置を見直し、固定し、倒れてくる家具で
けがをしないようにしましょう。
[詳細はこちら](#)

いざという時に備えよう！
あなただけの準備リスト

必要な準備と対策

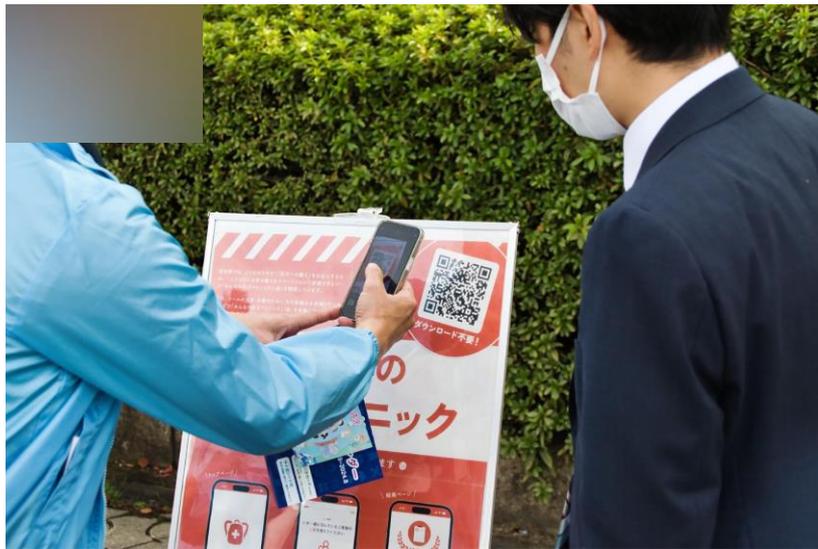
ハザードマップの入手
市町村からハザードマップを手に入れて、災害が起こった
らどこに避難するかを知りましょう。
[詳細はこちら](#)

必要備品リスト

 ヘルメット 持出品 ×2個 備蓄品 ×0個	 懐中電灯 持出品 ×2個 備蓄品 ×0個
 携帯ラジオ 持出品 ×2個 備蓄品 ×0個	 スニーカー 持出品 ×2足 備蓄品 ×0足
 モバイルバッテリー 持出品 ×2個 備蓄品 ×0個	 作業用手袋 持出品 ×2双 備蓄品 ×0双
 アルミブランケット	 携帯トイレ

工夫したポイント（ツール以外の点）

- 複数のイベントに出展
 - 多様な方に利用いただく機会の確保



- ポスターの制作
 - 利用方法を伝えて試用ハードルを低減



みんなの 防災クリニック



実証実験で得られた発見

- 成果が見られた点
 - ユーザビリティについて、「使いやすい」という評価が得られた
 - 77.5% (55/71) が結果ページに到達
 - ツール使用後の防災意識について、「高まった」という評価が得られた
- 改善が必要な点
 - 改善に必要なフィードバックが十分に得られなかった
 - アンケート回答数が僅少であった（8回答）
 - 回答を促す働き掛けを積極的に行う必要
 - 回答の情報源となる対策・備蓄品等のデータの充実及び精緻化が必要
 - 表示される対策・備蓄品等が似通ったり、ほとんど表示機会がないものがあったりする
 - 元データを充実させるとともに、属性&タグ付けの精緻化を図っていく必要

『県民一人一人の状況に合わせた防災診断ができるアプリの使用により、カスタマイズされた防災情報が受け取れるため、防災意識の向上に寄与することがわかった。』

3. 課題と今後の展開

サービス/システムに関する課題

- 対策・備蓄品のデータの充実及び精緻化
 - 「オーダーメイド」の対策を伝えるためには、各対策・備蓄品等のタグ付けを細分化し、必要十分なリストが表示されることが望ましい
 - タグ（属性）リストそのものの充実と、タグ付けの充実の双方を追求する必要
- 「手軽さ」か「きめ細かさ」か
 - イベントでの啓発のために利用する場合、短時間で診断できる点を重視すべき
 - 一方、実際の対策実施や備蓄品購入に繋げるためには、居住地や家族等に関する詳細なリスクを踏まえた診断結果とすることも必要
 - 洪水の被害を受ける地域なのか、どのような障がいをお持ちなのかなど
 - イベントでの啓発のために利用質問内容に関するプライバシーの観点からの配慮も不可欠
 - 「オーダーメイド」を追求するためには、年齢・お持ちの障がいの程度・詳細な住所地などに踏み込むこととなり、抵抗感が生じる可能性もある
- 実際の行動変容につなげる仕組み
 - 診断実施後に実際の対策を取っていただくことが最大の目標
 - 診断実施へのポイント付与、防災関連製品との交換・購入に利用できる仕組み等も1つの選択肢

導入に向けての課題と解決策

- 対策・備蓄品のデータの充実及び精緻化
 - 防災対策の棚卸し及びタグ付けの実施による診断結果の精緻化
 - リンクでの誘導先となる県ウェブサイトのコンテンツの充実
 - 職員の方々によるリストの追加・修正等が行えるダッシュボードの開発
- 「手軽さ」か「きめ細かさ」か
 - 簡易版と詳細版の導入
 - ハザードマップとの連携
 - 防災対策の棚卸し及びタグ付けの実施による診断結果の精緻化（再掲）
- 実際の行動変容につなげる仕組み
 - 診断実施等へのポイント付与機能の組み込み
 - ポイントを防災関連製品との交換・購入等に利用できる仕組みの導入

4. 參考資料

成果物（制作物）紹介

● みんなの防災クリニック

- ウェブアプリ形式で防災診断が行えるツール
- 8つの質問に回答することで、41の対策・65の備蓄品等から必要なものが抽出される
- 備蓄品等については、家族の人数などに応じ、持出品・備蓄品それぞれに必要な数量が自動計算で表示される

(画像は再掲)

